

せ かい いっさつ ほん
世界は一冊の本

おさだ ひろし
長田 弘

ほん よ ほん よ ほん よ
本を読もう。 もっと本を読もう。 もっともっと本を読もう。

か も じ ほん ひ ひかり ほし またた とり こえ かわ おと ほん
書かれた文字だけが本ではない。 日の光、星の瞬き、鳥の声、 川の音だって、本なのだ。

はやし しず しろ はなばな こどく き ほん
ブナの 林の 静けさも ハナミズキの 白い花々も、 おおきな孤独なケヤキの木も、本だ。

ほん せ かい ひら ほん ほん み ことば か
本でないものはない。 世界というのは開かれた本で、 その本は見えない言葉で書かれている。

ウルムチ、メッシナ、トンプクトウ、 ち ず いってん はる くにごに はる まちまち ほん
地図のうへの一点でしかない 遙かな国々の遙かな街々も、本だ。

す ひと ほん まち じ ゆ う ざつとう ほん よる まど あ ひと ひと ほん
そこに住む人びとの本が、街だ。 自由な雑踏が、本だ。 夜の窓の明かりの一つ一つが、本だ。

シカゴの さきもの しじょう すう じ ほん さ ば く すな ほん
先物市場の数字も、本だ。 ネブド砂漠の砂あらしも、本だ。

あめ かみ と ふた め ほん
マヤの雨の神の閉じた二つの眼も、本だ。

じんせい ほん ひと むね だ いっ こ にんげん いっさつ ほん
人生という本を、人は胸に抱いている。 一個の人間は一冊の本なのだ。

き お く ろうじん ひょうじょう ほん
記憶をなくした老人の表情も、本だ。

そうげん くも かぜ だま し ほん けん い そんげん
草原、雲、そして風。 黙って死んでゆくガゼルもヌーも、本だ。 権威をもたない尊厳が、すべてだ。

2000 億 光年 の なか の ちい ほん どん な こと で も な い。 い かんが 考 え る こ と が で き る と い う こ と だ。

ほん よ ほん よ ほん よ
本を読もう。 もっと本を読もう。 もっともっと本を読もう。